

待降節第二主日

2015.12.6

ルカ 3・1-6

今年も、主の訪れを告げる待降節を迎えました。この待降節のときが、わたしたちの心に今日の福音に響く洗礼者ヨハネの声を響き渡らせる恵みのときとなりますように。

「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」と今日も、洗礼者ヨハネは叫んでいます。主の道は、主が訪れてくださるための道です。その道を通って、訪れようとしておられる主のもとに馳せ行くべき道です。その道を整えよと今日の福音で洗礼者ヨハネはこの時代を生きるわたしたちに訴えかけています。

ヨハネの説教を聴いた人々は、洗礼者の勧めに従って、悔い改めの洗礼を授けてもらおうとしたと語られています。すでに洗礼の恵みを受けたわたしたちにも悔い改めの洗礼が必要です。わたしたちもまた、洗礼者ヨハネが指摘しているように、蝮のすえのごときものとなってしまっているかもしれないからです。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると誰が教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ」。聴くものを震撼とさせずにはおかない厳しいことばです。わたしたちの現状を直視する預言者のことばは、このように厳しいものとならざるをえないのです。互いに敵意を内に秘め、絡みつくようにして、争いあっている今の世のわたしたちの姿をこのことばはえぐり出して見せているかのようです。わたしたちはみな悔い改めの洗礼を必要としているのです。

「斧はすでに木の根元に置かれている。よい実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる」。洗礼者のことばさらに厳しさを増して行きます。「わたしたちはどうすればよいのですか」。わたしたちのこのような反応を引き出すために洗礼者はあえてこのような厳しいことばを投げつけているのです。下着を二枚持っている者は、一枚ももたない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」。さらに、「わたしたちはどうすればよいのですか」と問う徴税人には「規定以上のものを取り立てるな」と言い、兵士たちには「だれからも金をゆすり取ったり、騙し取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と洗礼者は勧めます。こうして、谷はすべて埋められ、でこぼこの道は平らになり、人はみな、神の救いを仰ぎ見る。」とめどなく、格差の広がる今の社会に生きるわたしたちにも、今日の福音の洗礼者のメッセージは進むべき道を示しています。

終末の収穫のときを迎え、風に飛び散る籾殻の中に、せめて一粒の麦が残されるよう、わたしたちの最終的な収穫の主のみ前に身を置いて、この待降節のときを生きたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高